

## 博士論文要旨

# 論文題名：『神仙傳』と六朝までの神仙・神人・真人・仙人像—超自然現象を中心として—

立命館大学大学院文学研究科  
人文学専攻博士課程後期課程

ミヤモト サヨ  
宮本 紗代

本論文は、『神仙傳』の中の「神仙」・「神人」・「真人」・「仙人」の呼稱の違いについて、超自然現象に焦点を当てて論じるものである。

第一章では、『神仙傳』の中で「神仙」・「神人」・「真人」・「仙人」の呼稱が異なるということは何らかの違いがあるのではないかと考え、解明を試みた。その結果、例外は存在するものの、傾向としては、「神仙」は具体的な個人を指さない呼稱として用いられ、「神人」は人がなれる存在ではなく、「真人」や「仙人」は人がなれる存在であり、「真人」は道教に關係して使われる傾向があるとわかった。このことから、『神仙傳』において「神仙」・「神人」・「真人」・「仙人」には違いが見られることが明らかになった。

第二章では、「超自然現象」を人の力を超越した絶対的なものと日常生活的な怪事とを合わせた、自然界の法則を超えた現象と定義し、「神仙」・「神人」・「真人」・「仙人」という呼稱によって、彼らにかかわる超自然現象に差があるのかを考察した。『神仙傳』では、もと人だった者がなれる可能性が低い「神人」や、「真人」には従者が千人以上おり、「仙人」には数十人以下しかいなかった。「仙人」になるのは「神仙」・「神人」・「真人」に比べると簡単なようだが、起こすことができる超自然現象には制限があった。このように、『神仙傳』の「神仙」・「神人」・「真人」・「仙人」は超自然現象から考えても同一視できない存在だとわかった。

第三章では、『神仙傳』の「神仙」・「神人」・「真人」・「仙人」が起こした超自然現象と、他書にみえる「神仙」・「神人」・「真人」・「仙人」が起こした超自然現象とを比較し、違いがあるのかを考察した。その結果、葛洪は『神仙傳』を著す際に漢代までの書の「神仙」・「神人」・「真人」・「仙人」像を参考にした可能性が高いとわかった。